

令和4年度 台東区における地域生活支援拠点等の検証について

(1) 相談支援機能

①相談実績

(件)

松が谷福祉会館 1件
 浅草ほうらい 16件

	介助者不在	本人状態変化	その他
身体・知的	1	0	1
身体	1	0	3
知的	4	0	7
精神	0	0	0
障害児	0	0	0

②主な相談事例

- ・両親から、移動支援の際に不穏になり他害が見られたため、在宅での生活が不安だと相談
 ⇒支給決定されていた短期入所を緊急で利用した。
- ・ヘルパーから、トイレ介助中に移乗がうまくいかず本人（重症心身障害者）を動かせなくなったと相談
 ⇒ヘルパーの確保ができなかったため、急遽相談支援員が訪問して対応した。
- ・家族から、仕事が終わらずヘルパーの終了時間までに帰宅できないため、本人が自宅で一人になってしまうと相談
 ⇒ヘルパーの時間延長ができなかったため、相談支援員が訪問し、家族が帰宅するまで見守りを行った。
- ・ヘルパーにコロナ陽性者が出たため急遽予定していたヘルパーの利用ができなくなってしまったとヘルパー事業所から相談
 ⇒訪問看護に時間変更を依頼したうえで、生活介護からの帰宅時から訪問看護が来るまでの間、相談支援員が訪問して支援を行った。

③検証結果

緊急のヘルパー確保が難しく、相談支援専門員への負担が大きい。

④今後の方向性

- ・引き続き、ヘルパーの養成を進めていく。

- ・緊急時の対応に備えたケース会議を積み上げ、各事業所の連携を密にして協力体制を構築していく。

(2) 緊急時の受け入れ・対応

①受け入れ実績 ※令和4年11月末現在

たいとう寮	2件	(同居家族の緊急入院) (家族からの虐待疑い)
浅草ほうらい	1件	(同居家族の入院)
チェリーハウス	1件	(家族からの虐待)

②受け入れができなかった事例

- ・家族の入院に伴い短期入所の利用の相談があったが、空きがなかった。
- ・短期入所中に家族がコロナ陽性になったため、延泊したいと相談があったが、空きが無く、やむなく在宅でフロアを分けて生活した。
- ・家族と関係性が悪いので家に帰りたくないとの相談があったが、短期入所の空きがなかったことに加え、本人の障害特性(勝手に施設から出ようとする)により受け入れが困難と判断した。
- ・本人がコロナ陽性となったため、受け入れができなかった。

③検証結果

- ・短期入所施設の空きがなく、受け入れができなかった事例が多い。
- ・本人の障害特性や感染症の感染により、受け入れができないケースもある。

④今後の方向性

区有施設の活用等も含め短期入所施設の充実を進めていく。

(3) 体験の機会・場の確保

①体験入居・地域生活体験事業実績 ※令和4年11月末現在

たいとう寮	23名・32件	(令和4年度新規利用者1名)
グループホームりゅうせん	5名・6件	(令和4年度新規利用者1名)

②グループホーム等への移行事例

令和3年度たいとう寮体験入居利用者(44名)のうち、9名が1人暮らしまたはグループホームに移行した。

③検証結果

複数年にわたり体験入居事業を利用しているが、障害特性や本人希望などにより条件が合わず、グループホームへの移行につながらないケースがある。

④今後の方向性

体験入居からグループホームへの移行につながりやすくなるよう、グループホームについて、民間事業者への整備費助成に加えて、区有施設を活用した整備を進める。

※令和8年度 重度身体障害者グループホーム整備（増床）予定

令和9年度 知的障害者グループホーム整備予定

（4）専門的人材の確保・養成

①人材確保・育成に関する取り組み実績

	<予定>	<実績見込み>
・ 障害福祉課		
重度訪問介護ヘルパーの養成	10名	3名
同行援護ヘルパーの養成	10名	8名
知的障害者（児）ガイドヘルパーの養成	45名	33名
登録手話通訳者の養成	2名	2名
重度訪問介護従業者養成研修及び		
同行援護従業者養成研修受講費用助成	6名	6名
介護職等就職フェアの開催	6回	6回
・ 松が谷福祉会館		
基幹相談支援センター研修会	2回	2回
・ 保健予防課		
精神保健福祉研修	1回	1回

②検証結果

各種ヘルパー養成研修の申込人数が少なく、予定通りの養成が進んでいない。

③今後の方向性

介護職等就職フェアでのPRなど、引き続き周知に取り組む。

（5）地域の体制づくり

①実績

- ・ 障害者地域自立支援協議会相談支援部会にて、事業の概要をわかりやすく説明したチラシを作成し、本人や家族へ配付するとともにホームページに掲載した。
- ・ 相談支援事業所が作成した「情報提供書」を障害福祉課がとりまとめ、地域生活支援拠点構成事業所間等で共有した。
- ・ 第2回自立支援協議会にて、地域生活支援拠点に係る意見を聴取した。

②検証結果

- ・地域生活支援拠点について、利用者等により広く知っていただけるよう周知をすることが大切。
- ・特に緊急時の受け入れが大きな課題であることが改めて明らかになった。

③今後の方向性

- ・セルフプランの方へ、障害福祉サービスの更新に合わせて周知をしていく。
- ・地域生活支援拠点等の検証結果を踏まえて、ショートステイの整備や相談機能の充実等、必要なサービス体制の充実を図る。